

2017年11月6日



## 共幻社presents

共幻社ライトノベルコンテスト簡易評価シート

作者名:寝る犬

タイトル:フリーター芦屋の怪談

項目	評価	総評	コメント
キャラクター	C	<b>B</b>	まずストーリーについてですが、各話読み切りタイプの短編となります。一話一話の完成度が高く、話のネタはまるで実際に経験したようなリアリティがあります。例えば、夜間警備の仕事をしてる芦屋が、裸足で歩く不審者を発見するという話。その不審者が屋上に携帯電話を忘れたので取りに来たといってきます。芦屋は屋上まで一緒についていくこととなりますが、いざ屋上で不審者から聞き出した番号にかけてみると、その場所には靴だけが置いてあり、不審者はいつの間にかいなくなっています。なにげない話ですが、夜間警備をしていればそういう状況に遭遇することもあるだろうという説得力があります。次に設定についてですが、芦屋がフリーターであるという設定が生きています。職業が固定されていると、同じようなシチュエーションの話が続くこととなりますが、毎回違う状況で読めるのはこの手の作品としてはプラスです。次にキャラクターについてですが、やや地味な印象があります。連作短編ということで、同じ登場人物がでてきますが、登場人物の掘り下げもなく、エンタメ的な意味でのキャラクターの魅力にも乏しいです。もちろん、このような地味なキャラクターを配置したことによって出てくる味というものがあり、それこそが作者の狙いなのだと思いますが、コンテストに応募する作品としてはこのような評価となります。全体としてよく書けていると思います。ただ、ホラーでは日常のすぐ横にある恐怖というジャンルは定番で、その中で頭一つ抜けているかといえ、平凡であると判断し、佳作どまりとさせていただきます。ただ、本作はまだ4話までしか書かれていないため、現在のクオリティを維持し、話数を増やしていく、またその中でキャラクターの掘り下げなどを行うことができれば、受賞作品相当の評価になる可能性もあるかと思えます。この度は当コンテストにご応募頂きありがとうございます。またのご応募をお待ちしております。
ストーリー	A		
設定	B		
文章	A		

\*五段階評価となります